

日本労働年鑑 第55集 1985年版
The Labour Year Book of Japan 1985

第二部 労働運動

XIV 政党

2 選挙

1 中間地方選挙

知事選・県議選

八三年七月～八四年六月のあいだに、知事選は宮崎(七月)、和歌山(一〇月)、高知(十一月)の三県でおこなわれ、いずれも現職が再選(宮崎)、または三選(和歌山、高知)された。これを支持政党別で見ると、自・公・民支持の保守・中道が二県(宮崎、和歌山)、自民党公認の保守が一県(高知)であった。

宮崎、和歌山両県では社会党が候補を擁立せず、共産党新顔候補との一騎打ちとなり、いずれも保守・中道候補が当選した。また、高知県では、全国的に少なくなった自民対社・共統一候補の対決となったが、公選制になってから一二期連続の保守県政は崩れなかった。

この間に実施された県議選は、八四年六月の沖縄県だけであった。選挙結果は、総議席四七のうち、自民二〇、社大八、社会五、共産四、公明三、無所属七であり、保守陣営が過半数を維持した。

市長選

八三年六月以降一年間に実施された市長選は、市の政令指定都市をふくむ一〇五であった。当選者は圧倒的に無所属が多く、党公認は自民の二(山形県米沢市、富山県黒部市)だけであった。

支持党派別の内訳を見ると、いちばん多いのが保守・中道型の二九であり、このうち、自・公・民連合が一、これに新自クの加わったもの八、社民連の加わったもの一である。このほか、自・公連合が五、これに新自クの加わったもの一、自・民連合が三となっている。つぎに多いのが保革相乗り型の二〇であり、このうち、自・社・公・民連合が七、これに共産の加わったもの四、社民連の加わったもの二、新自クの加わったもの一、この両党がともに加わったもの一である。このほか、自・社連合一、自・社・公連合一、自・社・民連合一であり、七党全部の相乗りも二(京都府八幡市、滋賀県大津市)であった。これに次ぐのが中道連合型の七であり、このうち、社・公・民連合三、これに新自くと社民連の加わったもの一である。このほか、公・民連合二、社・公連合一となっている。もっとも少ない型は社・共共闘型の六であり、社・共だけの連合は二(埼玉県上尾市、島根県浜田市)、これに民社の加わったもの一、公・民の加わったもの二、社民連の加わったもの一、という結果である。以上のような連合ではない単独推薦も若干あり、自民が五、公明が一、民社が一となっている。全体として、単独の公認や推薦は減り、連合型が増えている。そのなかでも、保守・中道型は、四分の一強を占め、保革相乗り型も増える傾向にある。

なお、無投票当選は二九で、全体の三分の一近くを占めた。

日本労働年鑑 第55集 1985年版

発行 1984年12月15日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

2001年8月21日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1985年版(第55集)【目次】 次のページ → ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
